

発話のためのナンバリング

【概要】



授業中に、学生の発話を促し対話の時間を作りたいと思っても、学生からなかなか意見が出ない事はよく起こります。対話のためのナンバリングとは、受講生にナンバリングをする事で対話を自動的に発生させる事です。「今日は1番からいきます」や「今日はグループ10からいきます」など、あらかじめ説明しておく事で学生が発言するための準備をすることができます。

【目的】



- ナンバリングする事で学生の発話への意識を高める
- 事前にあてる番号を伝えておく事で、学生が発話するための準備をすることができる

【所要時間の目安】



- 受講生が少ない場合（1～30人）の場合は、通し番号を言ってもらって自分が何番なのかわかります。通し番号にかかる所要時間は30～60秒程度です。
- 受講生が多い場合（40～100人）の場合は机ごと、グループごとに区切り、教員が番号を伝えてあげるとスムーズに進める事ができます。その際、一人挙手をしてもらい、「今挙手している人がいるテーブル（グループ）が、1番です」のように、伝えてあげます。

【準備物】



特になし

活動サンプル

活動の流れ

*1クラス30名の場合

- ①事前にナンバリングをする（2分）
・ナンバリングをして、ナンバーを呼ばれた人が回答する事について説明をする
・通し番号をしてもらう
・呼んだナンバーの人に回答してもらおう事を伝える
- ②問題や考えて欲しい話題を提示する（5分）
- ③番号を言って、個人／グループをあてる（5分）
- ④回答が終わったら次の番号を言う（5分）
・より緊張感を持たせるなら不規則にするのが良い

留意点

自分の番号がわかるよう、明確に。

例え受講生の人数が少なくても、一人ひとりが自分の番号を口頭で言わなければ、自分の番号を認識できない可能性があります。そのため、必ず通し番号で番号を言ってもらい、確認をしてください。

何のためのナンバリングなのかを伝える

自分の番号が分かっても、それが何のためなのかが理解できていなければ、あまり意味がありません。呼ばれた番号の人が回答しなければならぬ事を伝えてください。